

矢向あけぼの保育園だより 9月号

今年、残暑厳しく暑い日々が続いていますが、その分子どもたちは水あそびプールと満喫し年になりました。まだ、水は怖いけど泥んこならと水をたくさん使って全身真っ黒で楽しむかわいい子どもたちもいました。毎日、園庭から子どもたちのワワーキーキーと高らかな声が響き暑い夏を思いきり楽しみました。日中は、まだまだ夏日ですが、ふと空を見るとホトボが飛んでいたり、夕方になると鈴虫の音が聞こえてきたりと、秋が近づいてきています。

〈実体験がじと豊かにする〉

9月1日2日と年長さんが、お泊り保育をしました。お泊り保育では、子どもたちが仲間と共に力を合わせ、生活あそびをつくりだしていく一日を過ごします。「夕飯のメニューは何にする?」「夜は、花火や暗闇探検もやりたい」と子どもたちと担任で、何日もかけて話し合いをいたしました。本来の気持ちには、お父さん お母さんのいない夜を過ごすことに不安な気持ちもそのおせている子どもたちもいましたが、お泊り保育へは前向きな気持ちで話し合いをしようとして、子どもたちのやりたい事が、いっぱいつまった内容になりました。お泊りまでに必要な物を少しずつ準備し、期待を膨らませていました。当日の日中は、園外に出て自然豊かな緑区三休町の梅田川へ川遊びに行きました。そこで遊ぶ道具は子どもたちの手作りです。川や草むらで使える魚とシラス虫取りの網です。ザリガニやエビ、カニ、タニシなど捕まえた生き物をつれて帰ってきました。バツとちゅうらも捕まえたようですが、以前捕まえたときバツ用の餌の草をすぐあげられず死んでしまった経験があったので、迷がしてきたようです。思いきり遊んで帰ってきたら、今度は夕飯のメニュー(ニンジンやサウダグ)に入るコースは、星型です。日頃、星座の

おはなしを聞いてきたので「夜こぼん」だからと書いていました。食べ終わると、花火にプールお風呂にも入り、暗闇探検では各部屋の神様(保育士)から星座の話も聞いて、最後自分たちで作ったろうそくを灯し、担任がうも「星どうぼう」のおはなしをもらい1日目が終了しました。充実した時間を通じた子どもたちは、疲れ切ってすぐにくっすり寝入っていました。次の日の朝は、さすがに疲れてなかなか起ききれない子どもたちでしたが、思い出のタイムカプセルを星の、自分たちで作ったお味噌汁(4歳児の時に作っていたもの)でまぐり、お味噌汁、そしておにぎりの朝食をしっかりと食べお父さんお母さんと一緒に家へ元気に帰っていきまし。休み明けの月曜日には早速、連れてきた生き物のお世話をして、経験したことを絵に描いていました。思い出や伝えたい想いがあるのか、1枚にじっくり描きこむ子、1枚だけで叫びまくる何枚も描く子と色々だったようです。

お泊りの準備から自分たちでつくりあげ、やり遂げた子どもたちの顔には、自信と達成感に満ちた感じがあふれています。年長の誇らしい姿を見たキンギ(4歳児)ウサギ(3歳児)は、あこがれと実は自分たちかな?と漠然とですが感じているようです。

年長さんは、一つ大きな経験を通して興味や好奇心が強くなり世界が広がっています。小さい子どもたちも、年長さんの姿を通して刺激を受けている。このような活動が豊かに展開できるようになり、本来にふさわしい思いやり、エチケットの中、子どもたちの活動に制限せざるおえない時もありました。昨年の甲子園での仙台育英の監督の言葉を思い出しました。「青春。て案なので」のスピーチです。まさに「子どもたちの育ちは案なので」と感じ親大人も見て深く関わり、子どもたちもいろいろな感情のやり取りを共にするからこその育っていくのだと思います。これから以前のような保育が展開できているよう職員一同進んでいきたいと思っております。今回もさまざまなことご理解ご協力をお願いいたします。保護者へ感謝しております。これからどうぞよろしくお願い申し上げます。〈飯田 雅美〉